

Weekly Report

2018-19年度
名古屋瑞穂ロータリー
クラブ会長のテーマ
「継続と変化」



インスピレーションになろう

2018-19年度
国際ロータリーのテーマ
インスピレーションになろう
(BE THE INSPIRATION)

創立 1980年(昭和55年)1月10日
会長 湯澤 好道
幹事 湯澤 信雄
クラブ委員長 長谷川 隆
例会日 毎週木曜日PM12:30~
会場 ヒルトン名古屋

事務局 460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3 AMMNビル7F
TEL 052-211-3803
FAX 052-211-2623
MAIL 2760_nagoya@mizuho-rc.jp
URL http://www.mizuho-rc.jp/

第1840回例会

クラブテーマ:「熱田の杜・友愛・気品」

2018年7月12日(木) 曇り 第2回

司会: 湯澤勇生会場委員
斉唱: 「我等の生業」
ゲスト: 声楽家 大久保亮さん
米山奨学生 ケン ティ カリンさん

会長挨拶

平野好道会長

先週の会長方針の中で、南米でポリオが発症したとの報道があったとお話しましたが、幸いなことにその後の検査の結果ポリオではないことを確認したとのことでした。しかし、その報道があったベネズエラは生活環境が劣悪な地域があり、ポリオワクチンの接種率も低い地域があることから、ポリオ再発のおそれが懸念されていました。

結果的にはベネズエラのポリオ発症はありませんでしたが、ブラジルでもポリオワクチン接種率が50%以下の地域があり、ブラジル保健省はポリオ再流行の危険性を指摘しているということです。

WHOは1994年に南米大陸でのポリオ撲滅を宣言しましたが、その後に発症する可能性もあり、世界的な完全なポリオ撲滅までまだまだ努力が必要ようです。なお、ロータリーのエンドポリオナウのホームページによると、現在ポリオウィルスが発見された国は、アフガニスタン、パキスタン、ナイジェリアの3国です。

ところで、小児麻痺という言葉は知っていましたが、ポリオという名前はロータリーで聞くまで知りませんでしたし、小児麻痺と結び付きませんでした。また、ロータリーでワクチン接種の活動をしているのですが、最初ワクチン投与のボランティアの話聞いた時に、医者でも看護師でもないのに、注射ができるのと思ってしまいましたが、よく聞くと口に生ワクチンを投与していることを知りました。経口ワクチンの方が安くて、注射が不要なのだそうです。ただし、本当にまれにポリオを発症することがあるようです。なお、現在の日本では不活化ワクチンを注射で接種する方法に変わっています。

さて、地区内交流で、他のクラブの例会に出席しようという話をしましたが、お得な情報をお知らせすることを忘れていました。今年のカバナーの方針で、入会3年未満の会員、どうやらこの7月を基準にするようですが、その方が他のクラブに行った場合のビジターフィーを地区が後から払ってくれるそうです。つまり、2015年7月以降の入会者だそうです。一年3回までこの制度を利用できるそうです。例会に参加して、メイクアップカードか領収書をもって事務局に提出してください。但し、半年毎の精算だそうですので、7月に行っても支払いは来年の1月31日になります。制度の詳細内容は事務局までお問い合わせください。是非ご利用ください。

出席報告

星野一郎出席委員長

会員64名 出席44名 (出席計算人数48名)

出席率 75.9% 7月5日は補填により85.7%

ニコボックス

星野一郎ニコボックス委員長

- 7月31日は満91才の誕生日です。丈夫な身体に産んでくれた両親に感謝します。
鈴木 圓三さん
- 高村さん、納会後に色々勉強させて頂きありがとうございました。長谷川さん、治療いただきありがとうございました。淑久さん、新店、また昨日ととてもおいしかったです。
本多 誠之さん
- 今日は私の会長年度の最初の卓話者として大久保先生をお招きしました。
平野 好道さん
- ダイビング同好会で沖縄石垣島に行っていました。色々経験させていただき、勉強になりました。
松波 恒彦さん

- ダイビング同好会の皆様、石垣島おつかれ様でした。とても楽しかったです。お世話になりました。ありがとうございました。今後ともよろしくお願い致します。
北岡 寿人さん

- 昨日はゴルフ部の皆様おつかれ様でした。皆様のおかげで優勝させていただきました。ありがとうございます。
鈴木 淑久さん
- 昨日のゴルフ部会納会、おつかれ様でした。
鳥山 政明さん
- 7月5日のクラブ奉仕委員会では、有意義な意見交換ができました。

クラブ奉仕委員会出席者

委員会・同好会報告

青少年奉仕委員会:鈴木健司さん

- 本日メールボックスに名古屋熱田ロータリーアクトクラブ例会出席予定表、裏面には愛知県立瑞穂高等学校インターアクトクラブ例会出席予定表を入れてあります。私どもで出席予定の方を振り分けております。この表の順番で出席をお願い致します。どうしても出席できない場合は、事務局へお知らせいただき、代理の方に出席をいただくようお願い致します。

山口哲司さん

- 皆様にホームステイ受入のお願いについての用紙を配布してあります。CISVと言う国際交流の団体主催で、世界10カ国の子どもたちが7月末から1ヶ月間、八事の興正寺・旭 Kindergartenの幼稚園で共同生活をします。男女11才ぐらいの子どもたちが50名ほどです。その子どもたちに、日本の生活を1泊もしくは2泊体験してもらおうプログラムがあります。2名ほどの受け入れをご協力いただける方は、申し込み書への記載をお願い致します。この団体はかつて会員だった大島さんが東海支部の支部長で、長瀬憲八郎さんも役員をされていた信用のある団体です。近い年齢のお子さんやお孫さんのいるご家庭の皆様には、是非ともおススメを致します。世界の子どもたちと友達になれるという事にもつながります。詳しいことは説明をさせていただきます。何とぞご協力をお願い致します。

ダイビング同好会

- 7月7日(土)~9日(月)石垣島に行きました。



幹事報告

湯澤信雄幹事

- 本日13:40から第1回CA、理事会をヒルトン名古屋28F「Blue」にて行います。
- 次週7月19日(木)11:00から40周年記念実行委員会委員長・副委員長会議です。事務局にて行います。
- 次週7月19日(木)13:45から第1回社会奉仕委員会を事務局にて行います。
- 第6回WFF(ワールドフード+ふれ愛フェスタ)のチラシと広告協賛募集のご案内をメールボックスに入れてあります。

卓話

声楽家 大久保 亮さん

さて、本日は「音楽家の日常について」ということで、音楽家の仕事の内容、普段どんな生活をしているのかを話していきたいと思います。

本題に入ります前に、自己紹介を兼ねて私がどうして音楽家になったのかを少しお話しさせていただきます。もともと私はクラシック音楽が大好きで小学生の頃から色々なCDなどを聞いておりました。そして中学校に入学、母校には弦楽部があり、そこでチェロという楽器に出会いました。チェロの響きの深さ、波に惹かれたのだと思います。中学3年間チェロを一生懸命練習し、卒業するころには「チェロで音楽大学に行きたい!」と思うようになっていました。

音楽専門の高校に行くかとても迷いましたが、それはやめて普通科の高校に通いながらチェロの先生にレッスンを受けるという道を選びました。当時はチェロのレッスン、ピアノのレッスンをそれぞれ週1回受けており、絶対音大に行くんだという強い決意を持っていました。そんな中、私の人生を変える出来事が起こります。当時習っていたピアノの先生が「チェロで音大に行くにしても歌を歌う授業は絶対あるから今のうちに声楽を習っておきなさい」と声楽の先生を紹介されました。もともと歌うことは嫌いではなかったので毎回の声楽のレッスンは楽しく、ワクワクしたのを覚えています。声楽を習い始めて1年ほど経った頃、声楽の先生に「あなた本気で声楽をやる気ある？もしあるなら私の先生紹介するわよ」と言われました。当時はもちろんチェロを一生懸命練習していましたが、悩みに悩んだ末、私は声楽をとりました。当時習っていたチェロの先生に「チェロやめなす」というのは本当に辛かったです。しかしその後は覚悟を決め、声楽、ピアノのレッスンを受けました。受験直前には、音楽漬けな毎日でした。受験まであと数日、あろうことか風邪をひいてしまいました。声楽家は体が楽器、体調管理がなくなっているのは間違いなく自己責任。でも受験は待ってられません。私が受けた愛知県立芸術大学は当時3次試験までありましたが、1次と2次が声楽の専科試験。つまり声を使う試験は最初で絶体絶命でした。もうじたばたしてもどうしようもないので、試験までの数日間一切声を出さず喉の回復に努めました。そのおかげで試験当日は何とか声が出ましたが、コンディションは最悪でした。肝心の試験では自分の力のすべてを出すことができず、試験後母親に「たぶん落ちた、浪人させてください」と言いました。合格発表を聞くのが嫌で嫌でたまらなかったのですが、1次試験合格してしまいました。2次試験の頃には喉も回復し、思うように歌うことができました。2次試験も合格し残すは、3次試験のみ。1次試験が終わったときには「もう落ちた・・・」と弱気だったのですが、2次まで合格すると「何が何でも受かりたい」と気持ちがかなり変化してきました。合格発表の日、今でも覚えています。合格発表は大学まで両親と3人で見に行きました。自分の受験番号があったときの喜びは一生忘れることがないと思います。3人で泣きながら喜びました。その後は愛知県立芸術大学に入学し、学部4年、大学院3年間音楽を勉強し、現在に至ります。

前置きが長くなりましたが、本日のテーマ「音楽家の日常について」お話しします。まず、音楽家の仕事について。音楽家の仕事といっても多岐にわたります。100人いたら100通りの日常があります。私は現在、職業は？と聞かれれば当然「声楽家です」と答えますが、どこかの団体に所属しているわけではありせんので、かっこよく言えば「フリーランスの音楽家」悪く言えば「フリーター」です。また、プロの音楽家になるための試験はありません。音大を出たからと言って資格がもらえるわけではありませんし、音大を出ていない素晴らしい音楽家の方は山ほどいらっしゃいます。今まで私がしてきた仕事をまとめてみようと思います。大きく分けて2つです。オペラや宗教曲ソリスト、ソロリサイタルなどの演奏という仕事。もうひとつは合唱団の指導、個人レッスンなど教えるという仕事、この2つに分類されます。私も1週間この2つを主にしています。ここで私のとある1週間の予定を振り返ってみようと思います。

月曜日 午前演奏会打ち合わせ。午後から2人個人レッスン。夜間1人レッスン。
火曜日 午後から2人レッスン。夜間合唱団指導。
水曜日 午前、午後、各2人ずつレッスン。夜間合唱団指導。

木曜日 午前、午後各一コマずつ文化センターにて音楽講座（各2時間）
夜間演奏会打ち合わせ。

金曜日 オフ。夜間野球鑑賞。
土曜日 午後翌週の演奏会リハーサル。夜間演奏会前日リハーサル。
日曜日 演奏会。

このような流れになっております。演奏会は大きい演奏会、小さな演奏会合わせ月平均するとおよそ月4,5回。1日の予定では分刻みの予定が入っている日もあれば、夜間の合唱団指導だけという日もあります。その空いた時間にレッスンをしたり、自分の練習をしたりと予定を組みます。ちなみに土曜日の予定、午後はオペラのリハーサル、夜間は宗教曲演奏会のリハーサルです。本格的なオペラを1つ上演するのに練習は長くて半年、短くても1か月かけておこないます。オペラはまず演技をつけない音楽稽古からはじまります。そこで指揮者と綿密に音楽について打ち合わせをし、音楽稽古がひと段落するといよいよ演出家を交えて稽古がはじまります。本番数週間前には衣装合わせ、メイクなどの打ち合わせをし、ほぼ1週間前からオーケストラ付き稽古をおこないます。オーケストラ合わせは多くても3,4回しかできません。そして、最終通し稽古、ゲネラルプロベをおこない、本番となります。オペラは基本1か月から半年稽古をするのに対し、宗教曲等演奏会の場合、稽古は前日のみという場合が多いです。日本では年末の風物詩となっているベートーヴェンの第9交響曲のソリスト合わせは前日リハーサル、そして本番という場合が非常に多いです。なので各ソリストがオーケストラ合わせまでにきちんと練習をしてこないだと大惨事になります。以上のように声楽家は主にコンサート、オペラ、この2つが演奏の仕事です。その他過去に歌わせていただいたことがあるのが、演歌歌手コンサートのバックコーラスです。私は御園座で北島三郎さん、中日劇場で吉幾三さんのコンサートに出演いたしました。それ以来コンサートでも演歌を歌ったりすることがあります。あと個人的にあこがれるお仕事としては野球などの試合での国歌斉唱です。実は2度ほど依頼があったのですが、2回とも雨で中止。いつか歌える日が来ることを切に願ってます。オペラ、コンサートの話をしてきましたが、私が専門的に勉強していることは主にドイツ音楽、特にバッハの受難曲を勉強しています。受難曲というのは新約聖書の4つの福音書に基づくイエスキリストの受難を描いた音楽作品のことを言い、バッハはマタイ受難曲、ヨハネ受難曲を作曲しています。ヨハネ受難曲は演奏時間約2時間、マタイ受難曲は演奏すると3時間近くかかる大作です。私が今勉強しているのは受難曲の中で聖書の引用部分を語るエヴァンゲリストというパートです。物語の進行役ですので最初から最後までほぼ歌いっぱなし、大変やりがいのある役です。今年の5月にマタイ受難曲の工

ヴァンゲリストを歌わせていただきましたが、すべて歌い終わった後には何とも言いえない達成感がありました。私が今習っている先生は日本屈指の工ヴァンゲリスト歌いで、今西宮までレッスンに通っています。そんな師匠と昨年共演させていただく機会に恵まれ大変幸せでした。曲はバッハのヨハネ受難曲で師匠がエヴァンゲリストを歌い、私はテノールのアリアを担当しました。いずれ私も師匠のような工ヴァンゲリスト歌いになりたいなと日々思っております。

次に歌う仕事以外のお話をしたいと思います。先ほども申しましたが、演奏する以外には合唱団の指導、個人レッスンなどの仕事があります。私は今名古屋市中心に6つの合唱団で指揮、指導をしています。大学院を卒業した時には自分が合唱団を指導するということはまったく頭にありませんでした。大学院を卒業して1年ほど経ったときに、とある合唱団の指揮者の訃報を耳にしました。その指揮者の方が教えていた合唱団の団員さんから連絡があり、「突然のことでしたので今合唱団に指導者が不在です。合唱団の指導をお願いします」とのことでした。その亡くなられた指揮者の先生には生前大変お世話になったので、恩返しのつもりもありその合唱団で指導することになりました。最初は毎回の練習が不安で仕方ありませんでした。大学では自分が歌うということについては勉強しますが、合唱団などで教えられるようなノウハウは当然習いません。当時は大学で勉強してきたことをとにかく皆さんに伝えようとしていました。私がその合唱団にいくようになって3か月後にはもう演奏会があったんです。慣れない指揮で合唱団の皆さんには迷惑をかけたと思いますが、歌い終わった後で団員さんの何人かが前任の指揮者を思い出して涙を流されました。その涙を見たときに「この合唱団で素晴らしい音楽を作りたい」という気持ちが強くなりました。その演奏会が私にとってターニングポイントになったのかもしれませんが。合唱指導する喜びを覚え、どうすれば皆さんが笑顔で歌えるのかを一生懸命考えるようになりました。それまではどちらかというと技術的なことを固い言葉で言うだけではっきり言って面白くなかったと思います。その後はいくつかの合唱団から声をかけていただき現在に至りますが、今でも合唱団の奥深さ、難しさを体験し、勉強する日々です。大学生を中心とする合唱団に指導に行くこともありますが、自分の親よりも上の方と接することが大半です。そんな私よりも人生経験豊富な方々に指導するので、毎回緊張します。誰だって命令はされたくないし、できれば注意されずに楽しく歌いたいと思います。その中で指示を出していかなければいけないので言葉には細心の注意を払います。絶対に使ってはいけないNGワード、これは「何でできないの?」だと思えます。万が一私がこの言葉を使ってしまったら音楽を引退しようといつも心に決めています。あと、私がすべての合唱団の方に「合唱で一番大切なことは思いやりの心です」と言っています。合唱はそれぞれのパートがただ大きな声で歌うだけでは絶対にいいハーモニーは生まれません。例えばソプラノはアルトの声を聞きながら、テノールはバスの声を聞きながら、など相手のことを考えながら自分の声を出すことが大切です。それはもちろん技術的なこともあります。根本にあるものは相手を思いやるという心の問題だと葉思っています。これが徹底できている合唱団は温かい音が出せる合唱団だと確信しています。合唱団では50人ほどの方と音楽と一緒に作っていきますが、もう1つ、個人レッスンではマンツーマンで音楽について話し合います。実は今年私が1年間教えた生徒が私の母校、愛知県立芸術大学に合格しました。もともとオーボエを吹いていた子で、私のところには副科のつもりでレッスンに来ていました。ところが、私が出演するオペラを観に来た後のレッスンで「私、歌をやりたいです!」とってきました。とてもうれしかったのですが、受験まで1年しかない、間に合うのかと不安でした。なので「受験まで1年しかないから、この1年音楽にすべてをかける覚悟がある?ないならやめるべきだよ」と聞きましたが、彼女は一言「あります」と言いました。その時の彼女のやる気にかけてみたいという気持ちと、チェロから声楽に移った時の自分と重なるものがありレッスンを引き受けました。受験生のレッスンはその子の人生を預かっているようで責任重大でしたが、彼女は本当に一生懸命でサボったことは一度もありませんでした。合格したと聞いた時には嬉しくてこみ上げるものがありました。受かった当の本人が意外と冷静でしたので、この子は大物になるかなと思いました。いずれ第9と一緒に歌えたらなと思いますね。

最後に、音楽家になってよかったこと、喜びについてお話ししようと思います。音楽家の一番いいところは、毎回色々な方に出会えるということです。先ほどベートーヴェンの第9のお話をしましたが、同じ第9でも演奏者が違えば当然音が変わりますし、2度と同じ音楽を奏でることはできません。だから何度も演奏したことのある曲でも毎回アプローチを変えます。毎回違う指揮者、ソリスト、合唱団、その中からまた新しい縁ができ、その輪が広がっていくことが一番うれしいことです。そしてつながった方々がリサイタルに来てくださり色々感想を聞かせてくれます。そんな縁の1つ1つを大切に、演奏活動を頑張り、そして、何年後かに「エヴァンゲリストといえば大久保」と言われるようになればと思います。本日はご清聴ありがとうございました。



例会のご案内

- 今週の行事

7月19日(木) 第1回クラブフォーラム
内 容： 決算・予算・委員会方針
- 次週の行事

7月26日(木) 第2回クラブフォーラム
内 容： 委員会方針
- 次々週卓話

8月2日(木)
テ ー マ： 尾張旭の棒の手
卓 話 者： 田 中 宏